

オレンジ大使が講話



自身の体験を語る神原さん

「若くても認知症に」 六郷高

認知症の当事者として啓発活動に取り組む「あきたオレオレンジ大使」の神原繁行さん（60）が、美郷町の六郷高校で講話した。1、2年生約50人が、当事者の体験

談を通じて認知症への理解を深めた。

神原さんは横手興生病院（横手市）で看護部長を務めていた一昨年の秋、若年性認知症と診断された。現在は管理職を退き、社会復帰を目指す患者をリハビリ部門でサポートしたり、患者らが交流する「認知症カフェ」の運営に携わったりしている。今年1月には、都道府県が委嘱するオレンジ大使に東北6県で初めて就任し、講演活動などを

行っている。

この日は神原さんのサポートを担当する横手興生病院の作業療法士・佐藤昌子さんと共に来校。神原さんは「『まさか自分が認知症に』という思いはいまだに消えない。一番ショックだったのは運転免許の返納。それまで無事故、無違反だったのに運転できなくなり、今はバスで通勤している」と話した。

症状は緩やかに進行しており、前に話したことを忘れてしまふこともあると明かし、「高齢でなくても認知症になる人がいる」と紹介。これから挑戦したいことについては「皆さんと一生懸命関わりながら、こうした活動を活発にやっていきたい」と語った。講話は18日に実施。1年の五十嵐麻央さんは「認知症になった人の話を初めて聞き、苦労していることを知った。10代でも認知症になる人がいると聞き驚いた」と話した。

（佐藤将弥）